

2面・3面 巡回公演だより/制作だより/  
3劇団合同演習ワークショップ/新企画  
ルルとロコの宝さがし/第2回 昔話読み  
聞かせ・人形劇フェスティバル開催報告  
4面 日本芸術文化振興会助成事業完了報  
告・内定報告/第3回 昔話読み聞かせ・  
人形劇フェスティバル開催告知 ほか

http://www.suginoko.org/

E-mail: support@suginoko.org

# 「不要不急」から「必要必至」 の価値を目指して

理事長 大場 隆志



新型コロナウイルスの感染拡大を受けて二〇二〇年四月七日に最初の緊急事態宣言が発令され、一年が経過し、今年の四月二十五日からさらに緊急事態宣言が各地で発令され六月まで延長されました。

その間、芸術文化に携わる人々は経済的に打撃を受けただけではなく、「我々は不要不急なのか」という問いにも向き合ってきた一年であったと思います。そして、すぎのこ芸術文化振興会としても、この苦闘の経験を少しでも明るい未来につなげようと、日々考えながら必死に取り組んできた一年でもありました。

先日、北海道の事務所にいるときに読んだ人間学を学ぶ書籍の「致知」の特集が、京セラ創業者の稲盛和夫氏の特集で、京セラの創業から日本航空の再生まで約六十年、幾度も試練を乗り越え、道を切り開いてこられた稲盛氏の生き方、考え方について書かれています。

コロナ禍という現状の困難を生きる人たちにとって、勇気や希望を与えると共に、今後の歩み方を照らす何よりの道標となるに違いないと思いますので、あらゆる人に通じる人生の要諦を説いた稲盛氏の言葉を紹介させていただきます。そして、これは古今、多くの先哲が唱えてきたことと一致しています。

こんな時期だからこそ心に染みわたる言葉に触れることが大切だと思いましたが、是非皆様にも魂に響き、心に染みわたる言葉の真髓に触れていただければと思います。

以下は稲盛氏の言葉の一部を紹介いたします。

### ■ 災難や苦難に遭ったとき

災難や苦難に遭ったら、嘆かず、腐らず、恨まず、愚痴をこぼさず、ひたすら前向きに明るく努力を続けていく。これから将来、良いことが起きるためにこの苦難があるのだと耐え、与えられた苦難に感謝すること。良いことが起きれば、驕らず、偉ぶらず、謙虚さを失わず、自分がこんな良い機会に恵まれているのだらうか、自分にはもったいないことだと感謝する。これが素晴らしい人生を生きるための絶対の条件です。

### ■ もうダメだというときが、仕事の始まり

ものごとを成し遂げていくもとは、才能や努力よりも、その人の持っている熱意や情熱、さらには執念です。

「もうダメだ」と思った時点を終点とせず、仕事の再スタート地点と考え、成功を手にするまでは絶対にあきらめない粘り強さ。自分に限界を設けない、あくなき挑戦心、それこそがピンチをチャンスに変え、失敗さえ成功に結びつ

けることを可能とするのです。

### ■ 反省と努力

ほとんどの人は心の大切さに気づかず、心を立派にしようなどということに関心をもちたない。まずは、心を高めなければならぬ、心を美しくしなければならぬ、と思わなければならない。

そうしても、我々は煩惱、欲にまみれた人間であるから、なかなかそうはなれない。なれないけれども、「ならなければならない」と思い、反省する。

この反省があるから、また努力をしようと思える。

この反省と努力が「心を高める」にあたり、大切なのである。

### ■ 思いは必ず実現する

思いは必ず実現する。それは、人が「どうしてもこうありたい」と強く願えば、その思いが必ずその人の行動となって現れ、実現す

る方向におのずから向かうからです。

ただそれには、強い思いでなければなりません。

漠然と思うのではなく、「何がなんでもこうありたい」「必ずこうでなくてはならない」といった、強い思いに裏打ちされた願望でなければ、決して実現しないのです。

### ■ 人生・仕事の結果は考え方×熱意×能力

人生や仕事の結果は、考え方と熱意と能力の三つの要素の掛け算で決まります。

このうち能力と熱意は、それぞれ〇点から一〇〇点まであり、これが積で掛かるので、能力を鼻にかけ努力を怠った人よりは、自分には普通の能力しかないと思って誰よりも努力した人の方が、はるかにすばらしい結果を残すことができます。

これに考え方が掛かります。考え方は生きる姿勢でありマインスマー〇〇点からプラス一〇〇点まであります。

考え方次第で人生や仕事の結果は百八十度変わってくるのです。

そこで能力や熱意と共に、人間としての正しい考え方を持つことが何よりも大切になるのです。

### ■ 謙虚にして驕らず

人間はある程度成功すると、傲慢になり、自分だけよければいいという利己心が出てくるようになる。

しかし、少しばかりの成功で驕り高ぶってしまうようでは、その成功は決して続かない。

「謙虚にして驕らず」、どんなに成功しても、驕ることなく謙虚にふるまい、相手を思いやる優しい心を持ち続けることが必要です。

しかしながら実行するのは我にあり、実行を積み重ねて、初めて真価を発揮する言葉であると、改めて心に刻み、私たちの創造する芸術文化の価値が「不要不急」から「必要必至」なることを目指していきたいと思います。

## 巡回公演だより

### 「このつぎなあに」班

人形劇「このつぎなあに」は、山中恒さんが原作のお話です。山中恒さんは日本の児童文学作家で、「あばれはっちゃく」など、様々

な素敵な作品を世に出した方です。そんな先生が作り上げたお話を人形劇で私たちが上演できるのは、とても嬉しい気持ちと同時に、下手なものを作ることはできないと、身が引き締まる気持ちになりました。みんな作品作りをしました。

なで、どうしたら面白くなるのか、どう見せれば観客のみなさんに面白かった、と言ってもらえるのか、考えながら作ってきた「このつぎなあに」のお話も、今年度で役目を終え、少しお休みに入ります。みんなで作り上げてきた最後の



役目を私たちが担えるのは、とても誇らしく感じます。山中恒さんが作った作品への思い、そして皆で作りに上げてきた人形劇への思い、しっかりと皆様に届けられるよう努力していきますので、「このつぎなあと」をよろしくお願ひします。

### トン吉とカラス班

新作に携わるのは初めてだ。今回の「トン吉とカラス」は、再演とはいえ、台本・演出など変更事項が多い。間近で見えていたし、一応は作りものとかを（不器用なりに）手伝ったりしたけど、やっぱりやらないと分からないことがたくさんある。比較的準備が早かったこともあり、舞台も人形も出来上がりが早かった。それでも小道



具等稽古しながら製作するものも多く、ない状態であるつもりで稽古するしかない。実際完成してから演じてみると、まるで勝手が違いとまどう。また、新たに芝居に取り組み時は、新鮮な気持ちで向き合うよう心掛けてきたが、どうしても前任者たちが演じてきた影響を受けてしまっているようだ。今更ながら、新作に取り組んだ先人たちの苦悩を知る。だけれども産みの苦しみが大き

い分、挑戦だっっている。乗り越えた分だけの成長を、今は信じてる。

### はだかの王様班

みんな、ずいぶん会っていないけど、元気ですか。

こちら元気にしています。桜が散ったころに稽古が始まり、それから1か月、新緑がまぶしいころに総仕上げの試演会を行いました。今はダメなところを直して、もっといい劇にしようとして頑張っています。

「はだかの王様」は、それこそ「石の上にも三年」できてから三年目の旅を迎えますが、君たちと同じように年々少しずつ、新しく成長しています。

このお話を作った人は、アンデルセンという外国の人で、私が大好きな人なので、ひそかに喜んでいきます。古い写真で見るとアンデルセンの顔は、鷲鼻で気難しい、暗い印象ですが、作品とひととなりと考えると、実は明るくて、とてもユーモアがある人だと思えてきます。そして、子どもが大好きだということ。敬意を表して、アンデルおじさんと呼びたいと思います。

アンデルおじさんは、君たち、子どもたちのために、とてもいい作品をたくさん作りました。シンプルで奥深く、子どもが自立・成長するためのと気づかされるものがたくさん、星屑のように散りばめられています。「はだかの王様」の中でも、子どもの素直な心に光を当てていま



同時上演「三びきのやぎ」

す。

今、この暗澹たる現実の中にあっても、アンデルおじさんは、それだからこそ、子どもこそは王様だと言いたかったのかもしれない。勝手に想像しているだけなので、これ以上はお口チャックします。

人形劇を観てくれて、君たちと出会えて、話せたらいちばんだと思います。そのときはよろしくお願ひします。それまで、お元気で。

### おむすびころりん班

長期に渡り、マスクを着用していると、特に子どもは健康被害やコミュニケーション能力の低下が懸念されます。

頻繁に手洗い除菌していると、危険な菌だけでなく常在菌など味方の菌も殺してしまい、体に入る菌も減って免疫が下がり、アレルギーや体の弱い子が増えてしまう可能性もあります。

小さいお子さんを抱える親御さんは、心配が多いことと思います。

「おむすびころりん」のお話は、昔のお話なので、石鹸など無く、手を洗うのも水洗いだけ。そして素手でおむすびを握るので、手の常在菌がおむすびにも付き、それを食べて腸の中の菌も多様化し免疫力がついていく。食中毒には注意が必要ですが、手作りのものや発酵食品を食べたり、自



然の中で土に触れたりして、味方になる菌は積極的に取り入れたいですね。コミュニケーション能力の問題について、まさに今すぐのことで始動している新しい教育ジャンル「演育」が社会に浸透していけば、コミュニケーション能力低下問題の解決に繋がるのではないかと期待しています。

### 制作をよる

めつきり暑くなってきた今日この頃、皆様はいかがお過ごしでしょうか？例年であれば、熱中症や脱水症等に気を付けてお過ごしくださいと結ぶのですが、今年はコロナウイルスにも気を付けて過ごさなければなりません。私たちは全国各園におうかがい

する巡回人形劇を主体とし、活動を続けてきましたが、近年では公演数はめつきりと減少しております。このように既存の活動、または営業形態に影響が出ているのは私たちがだけではなく、各園様におかれましても様々な形で表れていると思います。ただ、この状況をただの「ピンチ」として見るのではなく、「チャンス」ととらえるのも一つの手段ではないのか、と思う部分もあります。

我々すぎのこは、これを機に他の劇団と協力して、「演育チャンネル」というものを作りました。直接うかがうことが出来ずとも、皆様にご覧のこの舞台や演育をお届けし、常にお近くに寄り添えればと思っております。まだコロナという先の長く暗いトンネルの出口は見えませんが、すぎのこは皆様と共に歩み続け、明るい未来へと抜け出せればと思っております。

# 3 劇団合同演育ワークショップ

5月19日(水) 狭山研修センターにて、提携劇団である劇団飛行船、劇団道化と、合同のワークショップを行いました。

前半に大場理事長より、演育についての説明があり、後半は「かちかちやま」を題材にして、登場人物の心の動きを考えながら、実際に演じてみました。

ためきとうさぎのお面をつけて、子どもたちと同じように、劇遊びを楽しみました。女性メンバーはもちろん、男性メンバーも



劇団員が実際にワークショップに参加することによって、より演育への理解が深まり、有意義な時間でした。今回リモート参加いただいた劇団道化のみなさんとも、今後一緒に取り組めることが増えてくると思い、楽しみです。正解を導き出すのではなく、同じお話を聞いて聞いて、自分の考えを言葉にし、仲間の意見に耳を傾ける。劇を通じたコミュニケーション体験を、ぜひ全国の子どもたちに広めていきたいと思えます。(榎本 千里)

とてもかわいらしく見え、普段は挨拶をする程度の劇団飛行船のメンバーとも、劇を通じて親交を深めました。同じ場面を何度演じても、一人ひとり演技が違って、飽きることがありませんでした。一つのセリフから感情を読み取るクイズでは、同じセリフを聞いても人により解釈の仕方がさまざま、話がつきませんでした。

## 新企画

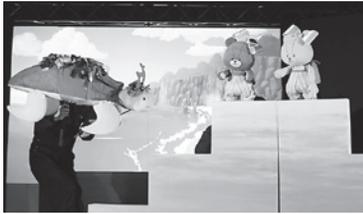
# ルルとロロの宝さがし

双子のくまの女の子、ルルとロロはとっても仲よし。ある日おばあちゃんの部屋で見つけたのは、宝物の地図!? わくわくステキな冒険の予感!

大人気絵本シリーズ『くまのがっこう』から生まれた、元気いっぱいのおルルとロロが人形劇になりました! 舞台にはプロジェクターを置き、場面ごとに映像で背景が変わっていく、今までにない舞台となっています。

光と音で表現する、すぎのこの新しい人形劇。子どもたちの目の前で始まるルルとロロの冒険を、ぜひみなさんで見守ってください!

(吉田 薫)



©BANDAI/LLP

## 第2回

# 昔話読み聞かせ・人形劇フェスティバルを 開催しました!

National Institution For Youth Education  
独立行政法人 国立青少年教育振興機構  
「子どもゆめ基金助成活動」

## 体験の風を おこそう

と想像していたのですが、4作品全部見て、もう1作品見たいと言っていました。素晴らしい機会をありがとうございました。「細やかな人形の動きやきれいな声で、作品に引き込まれました。5歳の子どもも全て楽しく鑑賞できました。」

「本と人形劇ではまた楽しさが違いますね。キツネの大仏がコミカルに動くのがおもしろかったです。女性の方の声がよく通っていて聞きやすかったです。他に催し物があれば参加したいです。」

「第2回昔話読み聞かせ・人形劇フェスティバル」を、3月21日、スポーツ&スパリゾート ソプラティコ狭山フットサルコート場に於いて、開催いたしました。このフェスティバルは、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受け、開催が実現したものです。コロナ禍、そして雨の中にもかかわらず、たくさんのお子とご保護者の方々がご来場くださいました。「この一年、子どもたち向けのイベントが少なかったため、このようなイベントが開催されて嬉しい」と、バスや電車を乗り継いで遠方から来てくださった参加者の方もいらっしゃいました。今回のフェスティバルでは、「おむすびころりん」「すいてん」「ねずみのよめいり」「かもとりごんべえ」の昔

話を題材として、本の紹介・読み聞かせ・人形劇を行いました。フェスティバル終了後には、「子どもたちから「楽しかった!」「また来たい!」という嬉しい言葉をもらいました。このフェスティバルが、お話の楽しさを伝え、子どもたちの幸せな思い出の一つとなっていただければ幸いです。独立行政法人国立青少年教育振興機構のご支援に、心より御礼申し上げます。(浅野 茜子)

「第2回昔話読み聞かせ・人形劇フェスティバル」アンケートより「4歳の娘と親子で来ましたが、とても素晴らしいものを見せていただきました。娘も1、2本で飽きてしまうか



独立行政法人 日本芸術文化振興会 助成事業



【完了のご報告】

日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金による助成事業、令和2年度「おむすびころりん」全国巡



回公演を、令和3年3月16日に完了いたしました。ご観劇いただいた園様には心より感謝申し上げます。

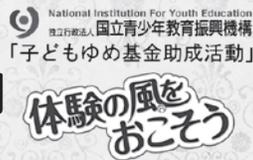
都道府県ごとの公演回数と公演回数は次の通りです。

Table with 3 columns: 都道府県 (Prefecture), 回数 (Number of performances), 日数 (Number of days). Lists prefectures like 東京都, 埼玉県, etc.

Summary table with 3 columns: 大分県, 宮崎県, 合計. Shows total counts for each prefecture and overall.

今回の事業は、新型コロナウイルス感染症流行の影響を多大に受ける形となり、これまでも助成事業として何度か巡回公演を行ってまいりましたが、このように少ない上演回数となったのは初めてのことで...

第3回 昔話読み聞かせ・人形劇 フェスティバル開催



この度、「第3回昔話読み聞かせ・人形劇フェスティバル」が、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」助成対象の活動として採択されました。

新型コロナウイルスの影響で、思うように外出ができない状況が続いておりますが、感染対策を講じ、楽しい時間を過ごすことができるように準備してまいりますので、近隣にお住いの方は、ぜひご来場ください。

日時：2021年8月1日(日) 場所：スポーツ&スパリゾート ソプラティコ狭山 フットサルコート場

参加費：無料 内容及び時間：10:00～「茶壺道中」、11:30～「三匹のこぶた」、13:00～「三びきのやぎ」、14:30～「うさぎとかめ」

※各作品終了後に休憩が入ります。 なお、今後内容や実施について変更の可能性もございますので、最新情報等はすぎのこHPをごらんください。

各種SNSフォロー&登録をお願いします♪

Instagram 劇団：@puppet\_suginoko 巡回班：@suginoko\_junkai Youtube チャンネル登録名：「人形劇団すぎのこ」



【内定のご報告】

昨年度に続き、今年度の新作「トン吉とカラス」全国巡回公演が、日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金による助成事業に内定されました。

ならびに、収入減により巡回公演の活動が継続できない恐れもあった中で、この度助成をいただきました日本芸術文化振興会様には、心より御礼申し上げます。

(福島 亜紀)

べのお話を元に、共存共栄、思いやりと優しさをテーマに加え、新しく生まれ変わりました。人は一人では生きていけない、他者を思いやる心を持つことの大事さを描いています。

(菅谷 香純)

今年度はもう一作品、やなせたかしさん原作の「そっくりのくりのき」でも内定をいただきました。

今回は映像を使った舞台演出を行い、これまでとは一味違う新しい「そっくりのくりのき」をお届けします。近年、商業演劇の世界では映像を効果的に使用し、従来の舞台美術や照明だけでは表現することができなかつた臨場感や世界観を表現している作品が目立っています。

(福島 亜紀)

活動記録(令和3年5月～6月)

Table with 3 columns: Date, Event Name, Location. Lists activities like '20th General Meeting' and 'First National Tour'.

